令和5年度　小学校高学年における教科担任制の推進

小中学校課

教科担任制推進の概要

これまでの小学校高学年における教科担任制事業の成果を踏まえ、

①学習指導の充実　②生徒指導の充実等

③働き方改革の推進　④中学校への円滑な接続を視点に、

鳥取県における「令和５年度小学校高学年における教科担任制」を県内の各小・義務教育学校（前期課程）で推進していく。

鳥取県における教科担任制の考え方

◇学級担任間の交換授業

学級担任間の交換授業（国語と算数、社会と理科等）による教科担任制の推進

◇専科教員等の教科授業

特定教科（外国語、理科、算数及び体育等）における専科加配及び級外教員による教科担任制の推進

令和4年度　県内小学校の事例

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数
A先生	5年1組担任	A	L	C	B	A	I	A	L	A	H	A	A	A	6	7	7
B先生	5年2組担任			D		B		B	J	B		B	B	B	7	7	5
C先生	5年3組担任	D		C	C	A		C	L	C		C	C	C	6	7	5.2
D先生	5年4組担任			D		B		D	J	D		D	D	D	7	7	7.2
E先生	6年1組担任	E	E	F	E	J	E	E	K	E	H	E	E	E	5	8	6.8
F先生	6年2組担任	F	G		F			F	I	F		F	F	F	6	8	6
G先生	6年3組担任	G		G	G			G		G		G	G	G	5	8	7

H～L先生：専科・級外等

推進協力校　アンケート結果～肯定的回答の割合～

R4.12～R5.1実施

○授業の理解度の向上
93.0%

○授業が好きな児童の増加
81.4%

○教員の時間外勤務時間の縮減
81.4%

○小学校高学年における教科担任制は、高学年にとって効果的なシステムである
90.7%

今後の小学校高学年における教科担任制の取組に向けて

※学校規模に応じて教科担任制の指導形態を工夫する

①担任間による交換授業によって、教員一人あたりの指導する教科を減らす

②試しに１単元だけで交換授業を行ってみるなど、まずはやってみて「手ごたえ」を実感する

③「学級担任が全ての教科を教える」から「組織（学年・チーム）で教える」という考え方に転換する

成果と課題（令和4年度推進協力校の報告より）

＜①学習指導の充実＞

○同じ単元の授業を複数回行うことによって、授業実践の妥当性が検証できた。

○個々の教員の得意分野（専門性）を生かして交換授業、出入り授業の組合せを工夫したことで、授業の質が高まった。

△教材研究をするにあたって相談できる教員が減る。

＜②生徒指導の充実等　③働き方改革の推進＞

○生徒指導が困難な学級ほど、多くの教員が出入りすることで指導・支援できることがわかった。

○全教科の準備の必要がなくなり、担当する教科の準備に集中できる。

＜④中学校への円滑な接続＞

○高学年で一部教科担任制を経験することで、児童がシステムに慣れた。

△生徒指導に関しては意見を交換するような場がない。